

難裂莢性的大豆新品种「里のほほえみ」

「里のほほえみ」はダイズモザイクウイルスに強く、高品質な品種として、(独)東北農業研究センターで育成されました。平成28年に埼玉県の奨励品種とし、県内でも本格的な栽培が始まりました。生育中に倒伏しにくいというえに、莢の着く位置が高く、機械収穫の適性が高い品種です。県内主力品種だった「タチナガハ」とくらべて大粒ですが、莢がはじけにくい「難裂莢性」のため、収穫時の裂莢による穀粒損失が非常に少ないので、安定した収穫が望めます。



左:タチナガハ(花色 紫、葉が長い)
右:里のほほえみ(花色 白、葉が丸い)

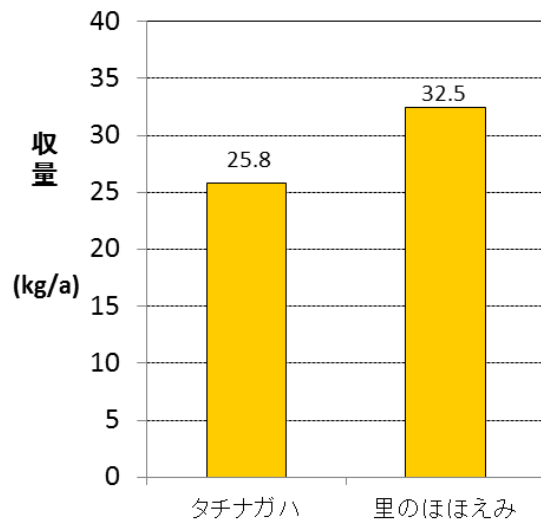


タチナガハと比べて、粒が大きい
(左:タチナガハ、右:里のほほえみ)



里のほほえみ タチナガハ

莢のつく位置が高く、機械収穫適性が高い



穀粒損失が少ないため、収量が高い
(平成26年現地2か所の平均)